

働くよろこびと 社会参加の輪を広げよう

34号

静岡県シ連だより



シルバーITテーブル創生事業 磐田市SCでの講習会風景

第34号 も く じ

会長挨拶	2
30周年を迎えて 伊東市SC	2
30周年を迎えて 藤枝市SC・磐田市SC	3
ふじさんっこ応援フェスタ、シルバーITテーブル創生事業	4
介護予防	
日頃の生活をチェックしてみましょう	5
平成25年度生涯現役社会実現環境整備事業実施状況	6
平成25年度シニアワークプログラム地域事業実施状況	7
安全・適正就業推進委員会から	8

発行者

(公社)静岡県シルバー人材
センター連合会

〒420-0851
 静岡市葵区黒金町5番地の1
 (静岡県勤労者総合会館4階)

TEL (054) 254-7240
 FAX (054) 205-4540
 E-mail shizuren@abelia.ocn.ne.jp

発行日 平成26年3月1日

 発行人／大村 脩 平
 編集人／黒木 秀 樹

会員の皆様へ

静岡県シルバー人材センター連合会

会長 大村 脩平(伊東市SC)

やわらかな木漏れ日を浴び、三寒四温を肌で感じながら、春も近付いてきたと思う時季になりました。会員の皆様におかれましては、ますますご健勝で活躍されていることとお慶び申し上げます。

人口減少と超高齢社会が同時進行する我が国にあっては、年金、医療、介護といった社会保障コストを多くの人が負担していくためにも、働く意思と仕事能力のある高齢者が出来るだけ長く本格的に働き続けられる社会を創る必要があります。

また、このためには、できるだけ多くの高齢者が多様な働き方を選択できる環境を整備することが必要であり、その一翼を担うシルバー人材センターの存在は今後、益々その重要度を増してまいります。

特に、平成二十六年度には団塊世代すべてが六十五歳に到達することからも、より多くの高齢者が地域で社会の担い手となるよう、会員拡大と併せて就業拡大に取り組む必要があります。

こうしたことから、連合会では県下三十四センターの役職員の皆様と一丸となって、地域活動を積極的に展開し、地域社会の担い手としての役割を十分果たせるよう努めてまいります。

3センターが30周年迎える！

社会では、積み重ねる大切さが、折に触れて語られます。人はもちろん、企業、団体も、苦難を乗り越えて年輪を重ね、節目をつくりながら成長します。本号では、今年30周年の節目を迎える3センターにご登場いただきました。

地域と
ともに歩み

そして
これからも

伊東市 シルバー人材センター

藤枝市 シルバー人材センター

磐田市 シルバー人材センター

伊東市シルバー人材センター

設立30周年を迎え

理事長 大村 脩平

昭和五十九年四月任意団体として産声を上げてから、三十年目を迎えることが出来ました。

設立当時と現在を比較しますと、会員数は三二九名から現在六四〇名と二倍程度ですが、契約金は設立当時一、二四六万円が平成二十四年度には二億七、六二〇万円と約二十倍にも実績を伸ばし、この一点を見ましても正に感無量です。

これも、ひとえに国・県・市行政のご指導とご支援並びに地域の発注者及び関係各位の深いご理解ご協力と、これまでご尽力いただいた歴代理事長をはじめとする役員、そして何と言っても延べ四千名を超える会員の方々のたゆまぬ努力の結果、三十周年という大きな節目を迎えることが出来ました。心から感謝申し上げ、さらなる事業の発展を期すことをお約束し節目の挨拶とさせていただきます。

衣類のリフォームショップ「ゆめ工房」

平成十一年二月オープンの「ゆめ工房」は、当センター三十年の歩みの中で大きな転機でした。

当時、空き店舗化の進む商店街の活性化策として、

県、市、商店街が推進する「空き店舗対策事業」を活用し、

当センター



ゆめ工房

初となる独自事業でした。



英語で遊ぼう教室

当初は、全国的にも非常に珍しい商店街に店舗を構えた独自事業でもあり、各センター間よりもより広く大注目を集めて、当センターの宣伝広告塔となり、後の子供向け英会話教室「英語で遊ぼう」など、独自の推進事業や事業発展の糧となっております。

担当して利用者から楽しく簡単にできる運動と喜ばれています。福祉家事援助事業は、介護保険に絡んだケースが多く、訪問介護ヘルパー三十五名と福祉家事会員五十名が頑張っています。

リサイクルバンク・マガモ

平成二十四年四月公益法人の法律改正により、公益社団法人に移行し、現在に至っております。

近年の急速な社会情勢の変化によって、センターを取り巻く環境は大変厳しくなっています。今後は、こうした環境に対応できるセンターとして、会員各位のたゆまぬ努力と地域の皆様のご理解に支えられ、事業運営に努めなくてはならないと考えております。

女性会員五名でお店の運営をしています。

数多くの種類と商品を取り揃え、子育ての先輩として、アットホームな雰囲気のある『店づくり』に向けて力を注いでいます。

子育て支援事業

「ふじさんっこ応援フェスタ」

「ふじさんっこ応援フェスタ」が十一月二十二日(金)、静岡市駿河区のグランシップ大ホール「海」並びにグランシップ広場で開催され、大勢の来場者で賑わいました。この事業は、子育て家庭等に対し、子ども・子育てを応援する企業や団体などの参加応援隊の活動について、周知・普及を目的に静岡県主催で開催しました。

県シ連のブースでは、平成二十四年度開催の「おもちゃ作品展」で人気の高かった手作りおもちゃの展示と一部の販売、磐田



県シ連ブース

市シルバー人材センター「マガモ」の子ども服リサイクル衣類販売のほか、折り紙教室やクリスマスカード作りのイベントも催しました。また、プロジェクターによるデジタル紙芝居や「福祉家事のお仕事紹介DVD」の上映、食育パネル展示、パンフレット・カレンダーも配布した。どのコーナーも来場者の関心を誘い、イベント会場内はたいへん盛り上がり、普及活動につながることができました。



シルバーITテーブル創生事業

シルバーITテーブル創生事業(平成24～26の三カ年)は、二年目を迎え、県内六センターで講習会を開催しました。団塊世代を中心とした事務系会員の実用的なパソコン技能の習得を支援するとともに、IT関連等の新たな就業機会の拡大を図り、センターの活性化を目指します。

●シルバーITテーブル創生事業実績

IT会員養成講座		受講者数	IT指導員実績	
			講師	講師補助員
東部	富士宮市シルバー人材センター(平成24年度モデルセンター)	16		2
	伊東市シルバー人材センター(平成25年度モデルセンター)	15		2
中部	焼津市シルバー人材センター(平成24年度モデルセンター)	11 16	1	4
	吉田町シルバー人材センター(平成25年度モデルセンター)	15		3
西部	磐田市シルバー人材センター(平成24年度モデルセンター)	11		4
	菊川市シルバー人材センター(平成25年度モデルセンター)	16		2
合 計		100	1	17
IT指導員養成講座		受講者数		
西部会場		12		

モデルセンターでの講習会は、会員の掘り起こしやスキルアップの場として、また、IT指導員養成講座を修了した会員には講習会の講師補助員として技能を身に付ける場ともなりました。今後もセンターおよび地域開催の講習会での活躍が期待されます。



伊東市SCでの講習会風景

介護予防

日頃の生活をチェックしてみましょう！

いつまでも健やかに暮らしたい。介護予防は、日頃の生活をチェックすることで、自分の状態、状況を把握しておくことが大切です。下記のチェックシートでご確認ください。

■各質問の「はい」「いいえ」の当てはまるほうにチェックを入れてみましょう。

		質 問 項 目	回 答	
A	1	バスや電車で1人で外出していますか	☐ はい	☐ いいえ
	2	日用品の買い物をしていますか	☐ はい	☐ いいえ
	3	預貯金の出し入れをしていますか	☐ はい	☐ いいえ
	4	友人の家を訪ねていますか	☐ はい	☐ いいえ
	5	家族や友人の相談にのっていますか	☐ はい	☐ いいえ
B	6	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	☐ はい	☐ いいえ
	7	いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	☐ はい	☐ いいえ
	8	15分位続けて歩いていますか	☐ はい	☐ いいえ
	9	この1年間に転んだことがありますか	☐ はい	☐ いいえ
C	10	転倒に対する不安は大きいですか	☐ はい	☐ いいえ
	11	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	☐ はい	☐ いいえ
D	12	BMIが18.5未満ですか〔BMI＝体重（ ）kg÷身長（ ）m÷身長（ ）m〕	☐ はい	☐ いいえ
	13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	☐ はい	☐ いいえ
	14	お茶や汁物等でむせることがありますか	☐ はい	☐ いいえ
	15	口の渇きが気になりますか	☐ はい	☐ いいえ
E	16	週に1回以上は外出していますか	☐ はい	☐ いいえ
	17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	☐ はい	☐ いいえ
F	18	周りの人から「いつも同じことを聞く」などのもの忘れがあると言われますか	☐ はい	☐ いいえ
	19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	☐ はい	☐ いいえ
	20	今日が何月何日かわからないときがありますか	☐ はい	☐ いいえ
G	21	（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない	☐ はい	☐ いいえ
	22	（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	☐ はい	☐ いいえ
	23	（ここ2週間）以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	☐ はい	☐ いいえ
	24	（ここ2週間）自分が役に立つ人間だとは思えない	☐ はい	☐ いいえ
	25	（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする	☐ はい	☐ いいえ

※ピンク色の回答にチェックが入った人は、それぞれの分野での生活機能の低下が考えられます。要介護の状態にならないためにも、介護予防に取り組むとともに、専門機関やかかりつけ医にも相談してみましょう。

A	生活機能全般を調べます…健康づくり全般に取り組みましょう
B	運動器の機能を調べます…運動器の機能向上に取り組みましょう
C	必要な栄養がとれているかどうか調べます…栄養改善に取り組みましょう
D	口腔内の状態※を調べます…口腔機能の向上に取り組みましょう
E	閉じこもり気味かどうか調べます…閉じこもり予防に取り組みましょう
F	もの忘れの可能性がないかどうか調べます…認知症予防に取り組みましょう
G	うつ病の可能性がないかどうか調べます…うつ病予防に取り組みましょう

※（口の中の状態等）

平成25年度生涯現役社会実現環境整備事業(生涯設計セミナー・相談会)実施状況

■生涯現役社会とは、誰もが生涯にわたり、健やかで自立した生活を送りながら目的を持っていきいきと活動し、長寿による豊かさを実感することができる社会です。そして、老若男女すべての人が世代を超えて互いに尊重し合い、社会を支える一員として参加する多世代共生社会です。そのため、職務経歴や年金等の社会保障制度を踏まえた高齢期の職業生活設計を高年齢者が自ら行い、当該設計を踏まえた働き方を検討・実施することができるようセミナーを開催するほか、職業生活設計に向けた相談・援助を実施することにより、生涯現役社会の実現に向けた高年齢者の環境整備を図ることを事業目的としています。

生涯設計セミナー実施状況

開催回	場所	開催日	内容（タイトル）	申込者数	受講者数	受講率
第1回	静岡市	9月6日(金)	「知らないと損をする！高年齢者の賢い働き方と年金・社会保障制度」	56	47	83.9%
第2回		9月11日(水)	「定年後のライフプランと働き方、生きがいづくりを考える」	44	31	70.5%
第3回		10月2日(水)	「効果的な再就職活動に向けて」	45	31	68.9%
第4回	沼津市	10月9日(水)	「知らないと損をする！高年齢者の賢い働き方と年金・社会保障制度」	54	48	88.9%
第5回		10月16日(水)	「定年後のライフプランと働き方、生きがいづくりを考える」	46	38	82.6%
第6回		10月23日(水)	「効果的な再就職活動に向けて」	38	29	76.3%
第7回	浜松市	10月30日(水)	「知らないと損をする！高年齢者の賢い働き方と年金・社会保障制度」	52	43	82.7%
第8回		11月6日(水)	「定年後のライフプランと働き方、生きがいづくりを考える」	34	29	85.3%
第9回		11月13日(水)	「効果的な再就職活動に向けて」	34	22	64.7%
第10回	富士市	11月20日(水)	「定年後のライフプランと働き方、生きがいづくりを考える」	15	14	93.3%
第11回		11月27日(水)	「効果的な再就職活動に向けて」	12	11	91.7%
第12回	掛川市	12月4日(水)	「定年後のライフプランと働き方、生きがいづくりを考える」	26	20	76.9%
第13回		12月11日(水)	「効果的な再就職活動に向けて」	20	14	70.0%
第14回	静岡市	1月18日(土)	「知らないと損をする！高年齢者の賢い働き方と年金・社会保障制度」	83	79	95.2%
第15回			「定年後のライフプランと働き方、生きがいづくりを考える」	69	65	94.2%
計			※上記とは別に「企業向け（出張型）セミナー」を実施	628	521	83.0%

(セミナー)



(相談会)

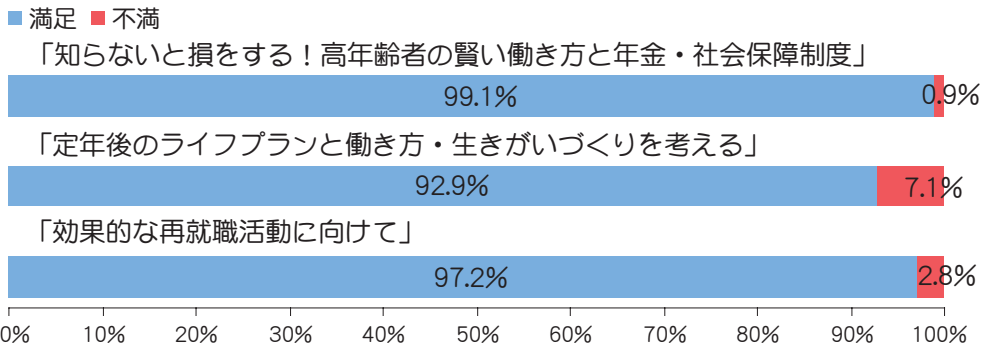


生涯設計セミナー受講者アンケート結果（有効回答者数：515名）

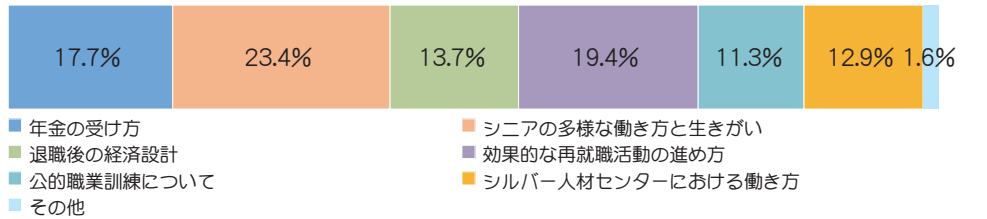


■役に立った ■まあまあ役に立った ■あまり役に立たなかった ■まったく役に立たなかった

生涯設計セミナーテーマ別満足度（有効回答者数：515名）



相談会での相談希望内容（有効回答者数：124名）



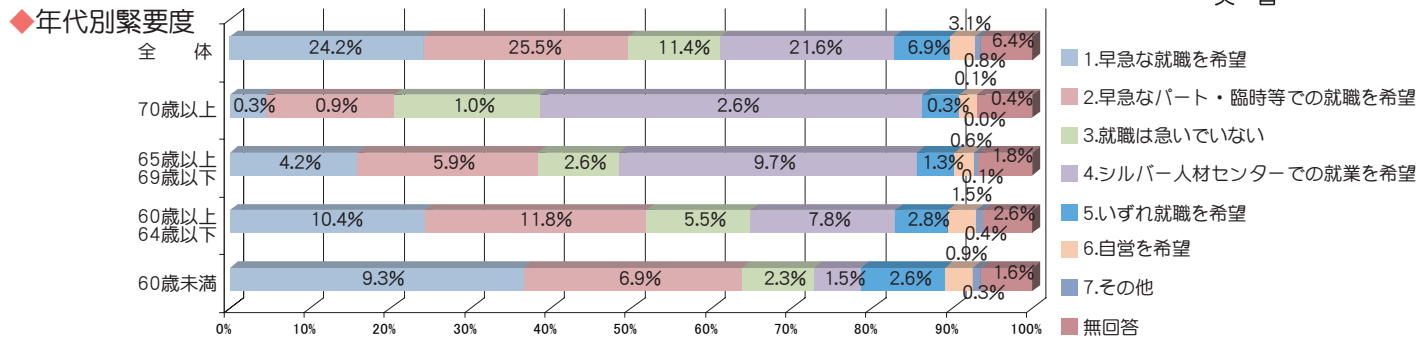
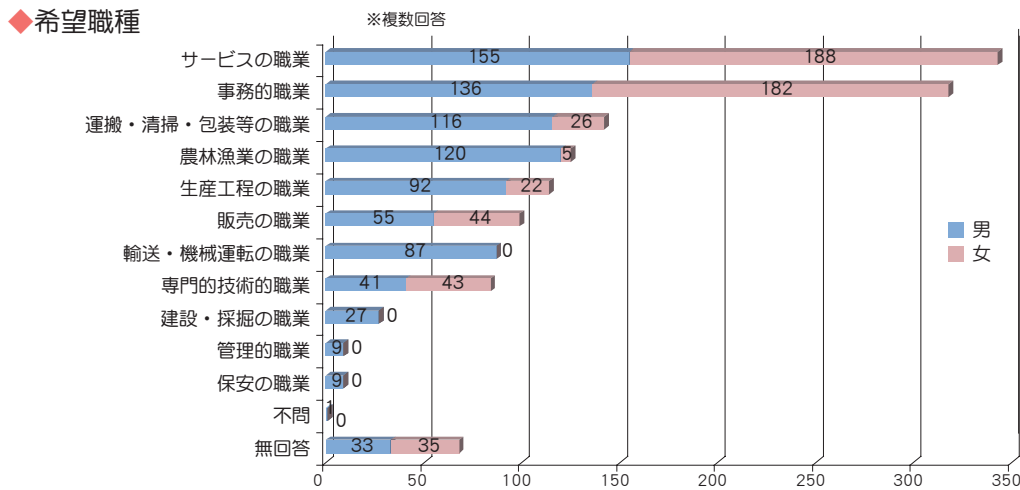
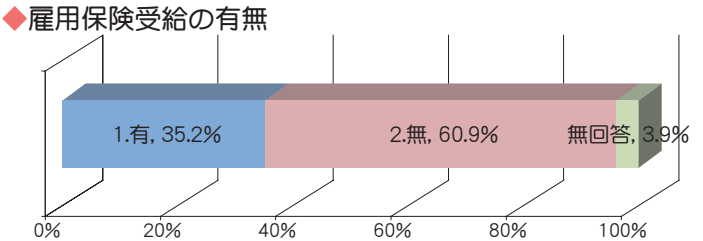
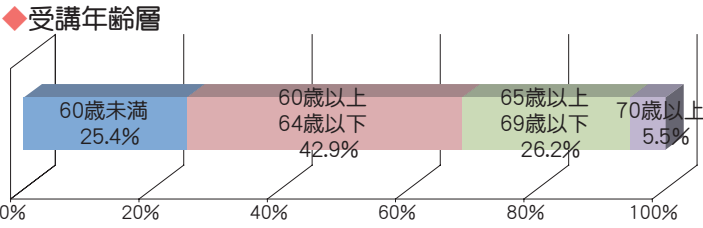
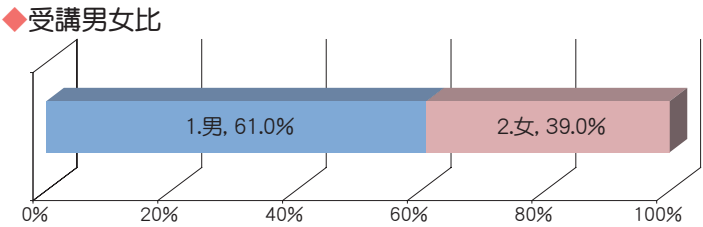
平成25年度シニアワークプログラム地域事業実施状況

【調査目的】
S P 講習会実施内容の検討及び広報活動の検討に資するため

【調査対象者】
平成25年度に静岡県シルバー人材センター連合会が厚生労働省（静岡労働局）の委託を受けて実施したS P 講習会を修了した者全員

S P 講習会実施状況

	講習会名称	実施回数	修了者数	申込者数
介護	介護調理スタッフ	3	43	57
	家事援助サービス	2	27	27
	食生活アドバイザー	3	40	44
	初任者研修	4	52	66
	生活支援サービス	1	9	10
	同行援護従業者養成	1	12	26
	福祉有償輸送運転者	5	83	141
一般事務 情報処理	福祉用具専門相談員	1	13	42
	介護事務管理士養成	3	67	93
	経理事務	2	21	23
	パソコンエクセル2級コース	2	28	31
	パソコンエクセル3級コース	2	29	30
	ビジネスパソコン	1	12	14
マンション管理 警備業	オフィス・ビルクリーニング	2	26	29
	オフィス・マンション管理スタッフ	2	25	25
	駐車場整理	1	10	14
造園業	造園緑化サービス	4	67	91
	庭園サービス	4	60	64
	庭園緑花サービス	1	18	18
運送 運輸業	玉掛け資格取得	1	4	6
	フォークリフト	8	114	134
製造業	水産・製造関連スタッフ	1	5	5
育児	子育て支援サービス	2	30	33
総計		56	795	1023



◆安全・適正就業の取り組み

県シ連では県内東部・中部・西部各ブロックから選任されたセンターの理事長と事務局長により「安全・適正就業推進委員会（委員六名）」（石山信博委員長Ⅱ掛川市SC理事長）が組織されています。委員会では、後述する「安全・適正就業推進研修会」の開催やパトロールなどを実施し、事故撲滅に向けて取り組んできました。しかし、近年県内では事故が多発し、改めて会員一人ひとりの安全に対する意識の向上が緊急の課題となっています。

そこで、本年度は「安全就業徹底対策検討会議」として、東部・中部・西部各地区において、センター職員、安全就業委員、現場リーダー等による意見交換会を行いました。「体をほぐすことも含め、就業前の準備がとて大切」「朝の顔色を確認するなど、健康管理の重要性を感じた」など、今後につながる数多くの意見が出されました。

◆安全・適正就業推進研修会

七月十二日、静岡労政会館六階ホールにおいて、県内各センターの職員や安全・適正就業推進員など



一二三名が参加し研修会を開催しました。基調講演は「墜落・転落事故防止に向けて」（中野労働安全コンサルタント事務所所長 中野洋一先生）と「草刈り作業、樹木整理作業におけるトラブル」（県林業技術者協会 片平成行会

長）の二本でした。

また、御殿場市SC勝亦事務局長より「安全就業について」の事例発表をいただき、安全作業点検表の紹介や、会員更新の際に健康状態を必ずチェックするなどの取り組みについて発表していただきました。参加者からは、「はじめて聞く危険要因も多々あり、参考になった」「実例をあげてのお話、また役立つ用具・器具の紹介など、大変役立つものであった」「御殿場市の安全作業点検表は大変良いと感じた」などの感想が寄せられました。

◆安全・適正就業パトロール

安全・適正就業

推進委員会の巡回訪問を、七月二十五日牧之原市SC、八月一日浜松市SC、八月六日伊豆の国市SCにて実施しました。主に除草作業や剪定作業現場を中心に巡回し、ヘルメットを



はじめとした保護具の着用状況や、刈払い機使用時の注意事項を遵守しているかなどをチェックしました。また、清掃工場の現場では家具の解体作業に携わる会員もあり、万一に備えてゴーグルの着用など、目の保護の必要を感じました。

巡回終了後には活発な意見交換が行われ、作業前の安全確認、刈払い機使用時の防護ネットの活用、保護具を必ず着用して作業を行うこと等を確認しました。

◆刈払い機取扱い作業者 安全衛生教育講習会

十一月五日静岡会場、十一月十九日伊豆会場、十一月二十六日掛川会場にて、会員八十八名の参加により、安全教育を実施しました。刈払い機使用中の事故防止や作業方法等に関する知識、関係法令の講義があり、また点検・整備の実技講習が実施されました。実技講習の中では、予想以上に汚れた刈払い機内部の様子に驚く受講者が多く、改めて定期的な点検・整備の必要性を感じたようでした。

講座終了後、受講者全員に林業・木材製造業労働災害防止協会より、修了証が交付されました。

自然満喫 シルバー農業

平成二十三年度より実施している企画提案事業「自然満喫 シルバー農業」は、本年度が最終年度となります。本年度は十一のモデルセンターを指定し、会員が農業に関わるための栽培技術の習得や農産物の選択、販路の確保等について事業を行いました。

この事業では多くのモデルセンターが子どもたちとのふれあいの機会を作り、田植えや芋ほり、もちつき等を子どもと一緒に行うことで、地域にシルバー人材センターをPRする効果もありました。

今後、シルバー人材センターが農業関連事業に取り組むにあたって参考としていただけるよう、三年間の取り組みを報告書にまとめ、各センターに配布する予定です。

